

小中一貫教育の実施における重要な視点

①施設一体型による小中一貫教育

②地域と学校との連携並びに適切な通学

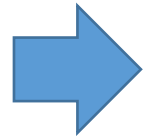
③単級の学校はつくらない

小中一貫教育とは…

小学校及び中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小学校及び中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育をいいます。

義務教育学校とは…

小中一貫教育校の一種で、小学校から中学校までの義務教育課程を一貫して行う。校長は1名。「施設一体型」とは、義務教育学校と同じく小中一貫教育校の一種で、1つの学校施設を小・中が共有し、学校教育目標の共有化などを図りながら教育を行う。校長は小中それぞれに1名。



目指す子ども像

- ・自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども。
- ・多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども。
- ・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども。

候補案	施設	当初案	1回目の意見交換会で意見として出された配置案								現状
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	
		2校 (当初案)学校配置を一色小と二宮中とする	2校 学校配置を西中・山西小のいずれかと二宮中とする	2校 二宮・秦野線で東西を分ける	2校 新設校①と既存校の2校	2校 新設校②と既存校の2校	3校 小学校区ごとに1校	3校 小学校のみ新設校①へ統合	3校 小学校のみ新設校②へ統合	1校 小中学校を新設校へ統合	
		一色小 二宮中	二宮中 二宮西中or山西小 (※3)	二宮中 二宮西中or山西小 (※3)	ラディアン裏新設 二宮西中or山西小 (※3)	東大跡地新設 二宮西中or山西小 (※3)	一色小 二宮中 二宮西中or山西小 (※3)	ラディアン裏新設 二宮中 二宮西中	東大跡地新設 二宮中 二宮西中	東大跡地新設	
		形態 施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	一色小は義務教育学校他2校は施設一体型	施設分離型	施設分離型	施設一体型	

評価項目（※2）	現在の条件での評価と理由																評価	理由
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由		
①-1 小中学校の教員が相互に乗り入れ指導がしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい	△	教員の移動が必要	△	教員の移動が必要	◎	施設一体型のため乗り入れしやすい
①-2 小中学校の児童生徒が相互に交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	◎	施設一体型のため、交流しやすい	△	相互の移動が必要	△	相互の移動が必要	◎	施設一体型のため、交流しやすい
①-3 小中の合同会議や合同行事が実施しやすい	◎	施設一体型のため、実施しやすい	◎	施設一体型のため、実施しやすい	◎	施設一体型のため、実施しやすい	△	ラディアン裏の面積が小さい	◎	施設一体型のため、実施しやすい	◎	施設一体型のため、実施しやすい	△	相互の移動が必要	△	相互の移動が必要	○	児童生徒数が多いため、工夫が必要
①-4 必要な校庭のスペースと安全が確保できる	○	児童生徒が2校に集まるため、安全対策が必要	○	児童生徒が2校に集まるため、安全対策が必要	○	児童生徒が2校に集まるため、安全対策が必要	△	ラディアン裏の面積が小さく、安全対策が難しい	◎	安全対策は必要だが校庭面積が大きく、安全対策がしやすい	◎	児童生徒が3校に分散しているため、安全対策がしやすい	△	ラディアン裏の面積が小さく、安全対策が難しい	○	小学生のみ1校に集まるため人数に応じた対応が必要	△	町内の児童生徒がすべて1校に集まるため、安全対策が難しい
②-1 地域と学校の適切な連携が図れる	○	一部合併が必要	○	一部合併が必要	△	中里地区が分断される	△	中里地区が分断される	△	中里地区が分断される	◎	おおむね現状の小中学校区で達成できている	△	小学校の圏域が町全体になる	△	小学校の圏域が町全体になる	△	小学校の圏域が町全体になる
②-2 適切な通学距離が設定できる	△	範囲は小さいが半径2kmを超える地域がある	△	半径2kmを超える範囲が大きい	△	半径2kmを超える範囲が大きい	△	半径2kmを超える範囲が大きい	△	範囲は小さいが半径2kmを超える地域がある	◎	小学校・中学校ともに半径2kmを超えるエリアは無い	△	中学校は現状どおりだが、小学校は半径2kmを超える範囲が大きい	△	中学校は現状どおりだが、小学校に半径2kmを超える地域がある	△	半径2kmを超える範囲が大きい
③-1 当面、各学校・各学年に複数学級を確保できる(※学区再編前提)	◎	R37年頃までは複数学級を維持できる	◎	R37年頃までは複数学級を維持できる	○	R22年頃までは複数学級を維持できる	○	R22年頃までは複数学級を維持できる	○	R22年頃までは複数学級を維持できる	△	R12年頃から単級化が懸念される	◎	R42年頃までは複数学級を維持できる	◎	R42年頃までは複数学級を維持できる	◎	R42年以降まで複数学級を維持できる
③-2 部活動の生徒数が確保できる	○	当面は確保できる	○	当面は確保できる	○	当面は確保できる	○	当面は確保できる	○	当面は確保できる	△	中学生が3校に分散する	○	当面は確保できる	○	当面は確保できる	◎	長期的に確保できる
③-3 部活動の顧問が確保できる	◎	小・中の教員が連携できる	◎	小・中の教員が連携できる	◎	小・中の教員が連携できる	◎	小・中の教員が連携できる	◎	小・中の教員が連携できる	◎	小・中の教員が連携できる	○	現状と同じ	○	現状と同じ	◎	小・中の教員が連携できる

各学校の児童生徒数が概ね359人～710人程度となる年度	2030(R12)	2030(R12)	2030(R12)	2030(R12)	2030(R12)	2025(R7)	2040(R22)	2040(R22)	2060(R42)	現状で一色小は200人以下
------------------------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	---------------

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より

財政負担(概算)										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

参考：学校ごとの施設状況

出典：公立学校施設台帳

学校名	教室数	敷地面積	延床面積(うち体育館)	校庭面積
二宮小学校	37	10,721 ㎡	7,223(870) ㎡	6,640 ㎡
一色小学校	33	21,902 ㎡	5,518(914) ㎡	7,326 ㎡
山西小学校	32	17,054 ㎡	6,180(897) ㎡	5,434 ㎡
二宮中学校	33	16,918 ㎡	7,428(1,116) ㎡	7,837 ㎡
二宮西中学校	32	22,406 ㎡	7,114(1,233) ㎡	9,396 ㎡

※1 意見交換会の結果から、学区の変更も含めて検討する。なお、**想定学区は現時点での仮定の内容。**

※2 評価項目や判定については、今後、修正の可能性あり。

※3 山西小学校区の学校配置については、山西小学校の校庭面積が小・中が混在する場合の最低必要面積(小2,400㎡＋中3,600㎡＝6,000㎡)を下回っているため、**暫定的に二宮西中学校を選択して評価**している。